



「ふしぎ心」を育てよう

今回のテーマは、乳幼児期の教育的取り組みについてです。

「できる子は始めている」的な、親心を逆手にとった恐怖心を煽る広告、あるいは藤井聡太さんなどの外れ値を、あたかも再現性があるように思わせる広告が目につきます。そんな情報を見ると教科学習を1日でも早く始めた方が有利なのではと焦ってしまいますよね。しかし小学校で学ぶことを浅い理解で先取りしてしまうと、「もう知ってるよ」と思い込み、教師の指導を軽視する恐れがあります。そもそも、乳幼児期の思考はリゾーム型（ランダムに繋がった知識、ひらめき、突発的で断続的な思考）と言われ、学童期のツリー型（系統的、関連的に知識を繋ぐ思考）と大きな隔たりがあります。脳の発達のみからみても、小1ギャップ軽減のために小学校教育を先食いするのは逆効果といえそうです。未就学児にとって重要なのは不思議を感じる心を育てることだと信じています。園長 山田 裕宇記